

授業と評価の年間計画

教科	理科	科目	生物	
使用教科書(発行所)		改訂版 生物(数研出版)		
履修条件 対象生徒	選択 普通科 理型 2年			
学習目標	身のまわりの生物学に関わる現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する態度を高めるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身に付ける。			
学習方法	<p>【授業】 教科書、図説、プリント、問題集、ICT教材等を用いて授業を行う。ノートの取り方については授業の最初の時間で説明する。実験では生物実験ノート・問題集を活用し、科学的な観察力・技能を身に付ける。</p> <p>【家庭】 問題集は、予習にも復習にも活用できる。基本的概念の定着には復習中心の学習が効果的である。日常のニュースを見ることも、生物学と社会のつながりに気づくために効果的である。反復学習を進め、学力の定着が望まれる。</p> <p>【補習・その他】 授業の進度や生徒の実情に応じて、適宜補習等を行う。</p>			
学習計画 と ねらい	2 2学期 (1) 中間考査終了から期末考査まで ア 生命現象と物質 (ア) 細胞と分子 (イ) 代謝 ・呼吸と発酵 ・光合成 ・窒素同化	<ul style="list-style-type: none"> 細胞とそのはたらきについて学ぶ。 細胞内外ではたらく酵素の反応について学ぶ。 呼吸や炭酸同化や窒素同化など、生物体内での化学反応について学ぶ。 		
	3 3学期 (1) 学年末考査まで (ウ) 遺伝情報の発現 ・遺伝情報の発現 ・遺伝子の発現調節 ・バイオテクノロジー (2) 学年末考査後 イ 生殖と発生 (ア) 生殖と発生 ・減数分裂と遺伝情報の分配 ・遺伝子の多様な組み合わせ ・動物の配偶子形成と受精	<ul style="list-style-type: none"> セントラルドグマのしくみを理解する。 遺伝子の発現を調節する機構について理解する。 DNAやバイオテクノロジーの基礎と応用について学ぶ。 減数分裂の仕組みと有性生殖の意義について理解する。 遺伝現象と様々な遺伝について学ぶ。 精子と卵の形成と受精について学ぶ。 		
評価規準	知識・理解	技能	思考・判断・表現	関心・意欲・態度
	自然の事物・現象について、基本的な原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	観察・実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に整理することができる。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、科学的に考察し、的確に表現することができる。	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとする科学的態度を身に付けている。
評価方法	定期考査、授業態度、課題・提出物・小テストなどを総合的に判断して評価する。			
その他	・「生物」は、「生物基礎」の授業を履修したのち2学期中間考査終了後から学習を始める。			

